

桜沢先生第五周忌世界PU人大会（新しき世界へ 1970年6月号）

後藤光男

4月24日(金)例年のように桜沢先生記念法事が四谷の主婦会館で行われた。今年は万博見物もかねて前日(23日)夕方到着したフランス、スイス、ベルギーの同志の一行15人が加わったので、在日のアメリカやブラジルの同志も集って、小さな世界大会の観があった。日本人の列席者も多く200人をこえていた。法事後に世界PU人大会を開いて桜沢先生の教えをしのび、世界平和への理想に対する誓いを新たにした。印象に残った発言を記しておく。

岡田周三氏一

万博を見て感じたことだが、アメリカ館で見る子供の顔の写真は何となく暗く病的な感じであったが、ソ連館に入ると子供の顔は全く明るく健康な感じがした。これは両国の食生活や教育のちがいの現われであろうと思った。ソ連では寒さ、ひもじさを与えるので、考える力と創造性が生まれる。ところが、我々は桜沢先生からこのソ連の教育法にも劣らないスグレタ教育法を教わっている。我々がこれを日本国中にひろめ実行したならば、日本は全ぐスバラシイ国になることは分りきっている。まだまだ我々の力の足りないことが残念である。

春野鶴子氏一

十数年前に私は桜沢先生を知ったが、その当時から、食品添和物の害を警告し、東西哲学の比較をして世界平和への道を説かれていた。その当時は全く不可能なこととして誰も相手にしなかったが、現在先生の言う通りになりつつある。これはシャカにも匹敵する大

予言者でなくては出来ないことである。私共は主婦連の運動を通して先生の教えを実現するよう政治に働きかけていく。

タルチエ夫人(パリ CI 副会長)ー

パリには正食食堂が七つも出来、近く八つ目が出来ようとしている。夏期、冬期の講習会も盛んである。又、パリでは 40 人程の医師が正食研究会を組織し、患者には食餌指導の処方箋を書いて我々の方に送ってくる。

ル・ゲーユ夫人(ベルギー)ー

桜沢先生の生きていた頃よく聞いた歌を今又聞いて大変なつかしく思います。正食のおかげで今度で三回も日本を訪れることが出来ました。

スイス代表ー

スイス人は昔は大変健康でした。しかし今はそうではない。住民 100 人につき 1 人の割合で医師がいる。スイスの人々は PU の思想を求めている。これから大いにひろめなければならない。

中村エブ(西ドイツ)ー

私がドイツを選んだのは、PU の普及には PU の理論的完成が必要であり、ドイツにはマルクスをはじめとして思想を理論化する伝統があるからである。ドイツにはまだ正食レストランもなく、病人治しも上手とはいえないが、出版物による普及は盛んである。桜沢先生の著書は 14 冊翻訳されており、その中 8 冊が発売されている。これだけ数多く先生の訳書が出ている国はないと思う。この他月刊雑誌は 11 年目になるが、今後もつづけられると思う。登録された会員だけでも 7、000 家族に上り、40 人からなる研究グループがある。

デヴィット氏(在日アメリカ人)ー

今、オーサワ先生の教えを奉ずるアメリカ人は日本に 15 人いる。ボストンの久司氏の指導を受けたものである。今後益々増えると思う。私はオーサワ先生の教えから大変な智恵を学んだ。先生の恩を忘れてはいけない。先生の肉体は死んでも、魂は我々の中に生きつづけている。これは玄米子です。(ハナちゃんをさす)

山口卓三氏(京都)ー

高祖さんの努力で今から 40 年前に桜沢先生が僅か 1 円の食費で 10 何日かゝってシベリヤ鉄道による蒲鉾旅行をしてパリに行った時の記録が発見された。途中新幹線の車中でこれを読み乍ら、先生の当時の道を求めるための並々ならぬ苦勞を想像することが出来た。それにくらべれば我々は便利な世の中に生きており、もったいないことだと思った。

吉田義正氏(福島県、自然農法研究家)ー

東京で旋板工をしていた 18 才の時、先生の著書「永遠の少年」を読んだ。私は中学しか出ていないので劣等感に悩まされていたが、先生の悪条件こそ幸福のもとであるという教に心から励まされ力づけられた。その後兄に代って農業をやることになったので、自然農法を完成させるよう努力している。人間の生命の糧を作る農業こそ文化のもとであると思う。

小林弘昌氏(自然食品センター)ー

私をはじめ自然食品店を渋谷にはじめて以来、日ましに増し、今都内に 400 軒の自然食品店が出来ている。しかし、これらがまともな自然食品を売っているとは限らないので、何とか脱線しないように導かなければならない。それは PU の原理によりはじめて出来るこ

とであり、PU 人の任務は大きいと思う。

五来長利氏(「健康と栄養」誌発行、栄養師)ー

20 数年前、家内が重症結核になったとき、桜沢先生の指導により全快したので、それ以来、先生の教えに従い食生活改善運動をしている。

矢野愛生氏(原宿自然食品店)ー

私は且て一燈園にいた頃、桜沢先生の教えを受けて正食をはじめた。7、8 年前、生長の家の人々が正食をやったら精神的にも大変なジャンプをするにちがいないと思って、生長の家の本部の脇に自然食品店を開いた。

川口トシ先生の閉会の辞で終る。

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください